



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER.2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Yes, we can change 「私たちは変えられる」
“Action” 「アクション」
「為せば、成る」 No challenge No fruits
「未来はそれに備える人のものである」
「入りたいな」と思われる楽しい会に

2019年4月号

NO 511

私を見たから信じたのか。見ないのに信じる人は幸いである。

ヨハネによる福音書20章29節

ワイズは不揃いのリンゴ

吉田 明弘

東日本区が決めた4月の強調テーマは、LT（リーダーシップトレーニング）です。これは、クラブにも求められているのでしょうか。

数年前、区の何かの委員会で、「クラブは不揃いのリンゴだから」と発言したら、皆に何を言うんだと目をむかれました。

「不揃い」って悪いことではありません。違うのが当たり前、それが良いのです。大量生産、大量販売、大量消費に都合が悪いだけです。収穫されたキュウリは、決められた規格の段ボールケースにきちっと収まるように長さで選別します。サンマの塩焼き定食で、隣の席と大きさが違ったら具合が悪いですよね。

でも、クラブは、メンバー1人ひとりが違うところに意味があるのではないのでしょうか。

メンバーは、企業や官庁のよう

に定期採用で、ある基準に従って加わるわけではありません。年齢、キャリア、家族構成、経済状態、健康状態、夢など、全く違います。それぞれ学生時代、職場、団体、町内、家庭でリーダーシップをとり、それで今日があるという自負もあります。しかもメンバーは、皆平等で、役員の任期は原則1年、ここでリーダーシップをとるのは容易ではありません。

まず、今年、自分が選ばれたのは、よくよく考えてみると、自分しかいなかったのだ、それで選ばれたのだと納得することが大切だと思います。

そして、共通の認識である定款の「信条」を読み返し、共通の言語である「ワイズ用語」を理解し、過去1年のブリテンを読んで、何時、何が起こり、どう備えるかを考えておくことだと思います。



WHOウォーキングのご案内

埼玉・田島ヶ原のサクラソウの自生地は、マリモヤ屋久杉同様、国指定特別天然記念物です。見頃に訪れ、ノウルシなど春の野の花々とともに楽しみます。

期 日：4月13日（第2土曜日）

コース：JR 中浦和駅ー田島氷川神社ー内木酒造所ー昭和水門ーサクラソウ自生地ー秋ヶ瀬公園ープラザウエストー<バス>ーJR 中浦和駅

集 合：JR 埼京線中浦和駅西口 改札前 9：45

解 散：JR 中浦和駅 14：30

参加費：300円。初参加の方は別に名札代として200円

クラブ役員

会 長 本川 悦子
副 会 長 高嶋美知子
書 記 石井 元子
会 計 河原崎和美
担当主事 木川 拓

3月の記録		ニ コ ニ コ	0円
在籍者数	15人	メ ネット	1人
(内 功 労 会 員)	1人	クラブファンド	20円
出席者数	10人	コメント	1人
メーキャップ	1人	ファンド残高	154,082円
出席率	78%	ホテ校ファンド	7,800円
前月修正	—	ホテ校残高	88,759円
		出席者合計	16人
		WHO参加者	33人

4月例会のご案内

今月の強調テーマ：LT (リーダーシップトレーニング)

おでんも売れば、宅急便も受け、現金振り込みもやるコンビニエンスストア。1960年代の米国では“Bantam (チャボ) market”と呼ばれる成長性が見込まれない地域のパパママ小売りチェーンとされていました。その躍進の秘密と、日米の比較を元セブン・イレブン・ジャパン(株)の朝倉正昭さん(東京世田谷クラブ)にうかがいます。楽しみにお出かけください。

日時：4月18日(木) 18:45~21:00

会場：ウエルファーム杉並

(杉並区天沼3-19-16 TEL3202-7330)

会費：1,500円

担当：A班(高嶋、鳥越、吉田)

HAPPY BIRTHDAY

15日 鳥越 成代

司会 高嶋美知子
受付 鳥越 成代

開会点鐘 本川 会長
ワイズソング 一 同
聖書朗読・感謝 吉田 明弘
ゲストとビジター紹介 本川 会長
会食

卓話 「コンビニの躍進の軌跡と日米比較」
元セブン・イレブン・ジャパン

朝倉 正昭さん

ハッピーバースデー

ワイズ報告

YMCA 報告

ニコニコ

閉会点鐘

会 長
木川担当主事
一 同
本川 会長

-3月第2例会(事務会)-

日時：3月28日(木)

19:00~21:00

会場：ウエルファーム杉並

出席者：神谷、河原崎、篠原、鳥越、本川、村野、吉田

<報告事項>

- ①3月のデータを確認した。
- ②3月の月次会計報告を承認した。
- ③会員の近況を確認した。

<協議事項・例会関係>

- ①4月の卓話内容を広く呼びかけて、ゲスト出席者が増えるよう努力する。
- ②5月の例会卓話者：候補者2人について交渉する。
- ③区次期会長研修会に出席した次期会長に参加費補助を行った。

<協議事項・例会以外>

- ①4月の事務会は4月25日(木)18:00~山手センター301号室で行う。クラブロッカーの確認後、通常の報告、協議事項に加え、これからのホテル学校支援について小畑校長を交えて話し合う。
- ②次期クラブ委員長などは5月に選任する。

③区のクラブEMCのアンケートに対する回答は吉田明弘さんが行う。

④アジア太平洋地域大会への募金をクラブファンから支出することを承認した。

⑤熊本にし・熊本ネクススクラブ10周年合同記念例会に、当クラブから祝金を贈る。

⑥7月に来日予定の香港YMCA高校生15~6人のために日本の文化に触れるというテーマで24日に茶会が催される。東京多摩みなみクラブの深尾香子さんから依頼があり、クラブ有志が協力する。

(書記代理・篠原文恵)

4月以降の行事

▲5月11日(土)13:00~

第3回あずさ部善光寺評議会

出席者：石井・神谷・河原崎・篠原・本川・村野・吉田

▲6月1~2日(土・日)

東日本区大会(代々木)

出席者：石井・大野・神谷・河原崎・高嶋・篠原・鳥越・本川・村野・吉田

卓話者紹介

朝倉 正昭(あさくら・まさあき)さん

1990年セブンイレブンジャパン(株)(SEJ)がサウスランドコーポレーション(SLC)から米国ハワイ州の58店舗買収したのに伴い、経営責任者として着任。1995年米国本土の約5,000店をSEJが買収、経営担当者として米国駐在。その後、執行副社長(EVP)、最高経営責任者(COO)国際部責任者を歴任。2017年に定年退職。同年東京YMCA妙高高原ロッジのファミリーキャンプ参加を契機に信越妙高ワイズメンズクラブに入会。翌年、東京世田谷ワイズメンズクラブに転籍。2018年からクラブの会長。

▲7月19~21日(金~日)

アジア太平洋地域大会

出席者：石井・大野・神谷・河原崎・篠原・高嶋・本川・村野・吉田



東京世田谷クラブとの合同例会、左は卓話の小倉志郎氏



東京駒込の大名庭園のシダレザクラと3月のWHO参加者

隠され続けた原発の怖さ —3月合同例会—

今回の合同例会は、東京世田谷クラブの担当、東京 YMCA 南コミュニティセンター3F の会場で3月22日(金)、18時30分から20時30分まで持たれた。

張替メンの司会で、朝倉会長の開会点鐘に続き、ワイズソングと信条を一同で唱和…とプログラム通り、お弁当には手作りのお汁が添えられて温かく嬉しい。

そしてメインプログラムの、小倉志郎氏による「隠されつづけてきた原発のほんとうの怖さ」の卓話をお聞きした。

小倉さんは1941年戦争直前に東京で生まれ、空襲・敗戦を体験し、衣食住全てが不足した状況から記憶が始まる。学生時代、原子力は日本のエネルギー資源不足の救世主だと信じていた。日本原子力事業(後に東芝に吸収合併)に就職。12年後原発の安全設計に疑問を感じる。チェルノブイリ事故・事故後5年、ソ連崩壊。

2002年定年退職。35年間の原発関連業務を終える。2007年「原発を並べて自衛戦争はできない」を執筆。内部被ばくの脅威を知り、脱原発に確信を持つ。

2011年3月5日、放射線の健康への影響が子供にもわかる紙芝居「ちいさなせかいのおはなし」を創作・上演、その6日後に福島原発事故が起きた。

その後さまざまな活動「元原発技術者が伝えたい本当の怖さ」などの著作・各地での講演を通して原発の危険性を訴え続けている。

原発の危険性の核心は、①放射能汚染、事故が起きれば国家滅亡の可能性あり。原発の稼働によって放射能は継続的に放出され、使用済燃料中に膨大な放射能が生まれ、溜まった放射能を現在の人類は安全に処理・保管することはできない。②内部被爆、自分は放射能の健康への影響については素人だが、参考書を読み、放射能の人間への影響に無知であったかを知り、生き方を変えるきっかけになった。ぜひ皆様もお読みになることをお勧めします、と結ばれた。

先ず、紙芝居を身近な人、できるだけ多くの人に伝えたいと思った。

会場は、整理整頓がなされ、気持ちの良いスペースになった。今回は参加希望が多く、受付を締め切ったとのこと。

出席者は、<メンバー>大野・神谷・河原崎・木川・篠原・高嶋・鳥越・村野・本川・吉田、<メネット>神谷、<コメット>アナンディー理佐、<ビジター>田上(熊本むさし)、服部・藤江(東京たんぼぼ)、長谷川(東京八王子)計16人、世田谷クラブ関係19人、合計35人であった。

(村野絢子)

シダレザクラに笑顔 WHO 3月例会報告

陽気が良いので、本命の六義園のシダレザクラに加えて、飛鳥山のソメイヨシノも開花して、“両手にハナ”と思っていたら、3月23日は、震え上がる寒さ。王子駅を33人で出発。

まずは、切手とお札の博物館へ。偽札防止の技術の進歩の説明を受けました。装束稲荷には、関八州の狐が大晦日の夜に集まって参拝したと伝わる装束稲荷から王子稲荷神社へ。お札と狐の組み合わせが妙です。背中合わせの名主の滝庭園では男滝から水が勢いよく落下していました。

王子石神井神社から石神井親水公園を経て、飛鳥山で昼食。花の蕾は固く、足から上がってくる寒さに、ほうほうの体で、南北線で駒場に移動し、大名庭園・六義園へ。

シダレザクラは、早咲きとあって見事な晴れ姿。思わず歓声を上げ、しばし見入りました。寒さによる疲労が消えて全員が明るい笑顔になりました。第二シダレザクラも見てから、藤代峠の急坂もなんその。峠から回遊式築山泉水庭園を一望しました。園内を一周染井門付近で解散しました。

ワイズ関係参加は、吉田(東京西)、中澤・藤江(東京たんぼぼ)、関(元・石巻広域)。

(吉田明弘)

千葉に「ウエスト」クラブ 結成が進む

町田スマイリングクラブの国際加盟、横浜鶴見クラブの設立総会に続き、千葉クラブをスポンサーに船橋 YMCA を支援する新クラブの設立の動きが聞こえてきます。クラブ名は、仮称千葉“ウエスト”とのことです。

私たちは、東西日本区にある、“西”クラブで、“西連合”のブラザーリングを行っています。

東京西・京都ウエスト・大阪西・神戸西・熊本にしクラブです。東日本区では、東京西クラブが1クラブで孤塁を守っています。

千葉ウエストクラブの誕生を、心待ちにしています。タイミングよく出来る限り応援しましょう。
(吉田明弘)

ホテ校奨学金をどうする 4月事務会で協議

奉仕すべき YMCA を身近にもたない東京西クラブが、2007年に、当時、担当主事だった小畑貴裕担当主事の提案を受けて始めたのが東京 YMCA ホテル専門学校に通う留学生の奨学金でした。少しでもアルバイトを減らして、その時間を有効に使ってもらいたいとの思いがありました。毎年、ホテル学校側から推薦を受けて、1人か2人に、贈呈式をおこなってきました。

12年が経過し、事情が変わってきました。ここらで考え直してはという意見も出てきました。当初は、経済的に苦しい学生が推薦されていましたが、近年は、選考が難しいように感じられます。個人に渡すのではなく、多くの学生に役立つことに用いられる方法を考えようという意見もあります。また「あしながおじさん(おばさん)」として匿名性を保つべきだという声、逆に良いことをやっているのだから、もっとアピールして協力者を広げるべきだという外部からの提案も出てきま

した。

たまたま、開始した時の小畑さんが、ホテ校の校長でもありますので、クラブの意向を伝え、ホテ校側の事情、要望をききたいというのが、4月24日(木)山手センターで行う、事務会です。

(吉田明弘)

東京サンライズクラブ 設立30周年記念例会

3月23日(土)12:00から、ブラッスリー東洋日本橋というレストランで東京サンライズクラブ設立30周年記念例会は開催された。

第1部は記念例会。祝辞(アジア太平洋地域会長、東日本区理事、スポンサークラブ東京山手クラブメンバー)、写真投影による30年の歩み(別に、毎年度の役員、主な事業を記した冊子も配布された)。30周年記念事業(第22回東日本区大会のホスト)のご披露、閉会点鐘。

第2部は祝会・懇親会。東京サンライズクラブらしい沢山のお酒と美味しいご馳走と余興「童謡100周年に寄せて～北原白秋を歌おう～」なる専門家による朗読・歌・お話と、賑やかに楽しい時間を満喫した。しかし、お喋りで騒がしく折角の朗読・歌もよく聞き取れずまた聞く人も少なく? 演奏者には気の毒であった。

IBC 台北ユニオンクラブ、DBC 東広島クラブ、DBC 京都プリンスクラブの各会長の祝辞は異口同音に東京サンライズクラブの山中湖へのハード面ソフト面での支援活動や交流活動を讃え、益々の活躍と激励が述べられた。

その後、さまざまな盛り上がりの中で、謝辞をもって15:00お開きとなった。

出席者はIBC、DBC、出演者を含め約90人であった。クラブからは大野貞次さん、高嶋美知子さん、神谷夫妻の4人が出席した。
(神谷幸男)

YMCA Today

■ホテル学校ではホテル科 133人(内留学生2人)、ホテル旅館経営学科2人、計135人を迎え、4月4日に霊南坂教会で入学式を挙行します。2019年度スタート! 彼らの成長をスタッフ一同、全力でサポートします。

■東日本大震災から8年目にあたり、被災者支援活動のための街頭募金を実施。南センターでは70人が2月24日と3月10日、経堂、田園調布、二子玉川の各駅周辺で募金を呼び掛け、158,790円が寄せられました。3月10日に高田馬場駅周辺で行われた山手センターの街頭募金には37人が参加し、63,286円が集まりました。

■2019年7月から、世田谷区船橋で新しく「YMCA 保育園ねがい」をスタートします。既存の「世田谷区立希望丘保育園」の園舎をリニューアルして、0歳から就学前児まで79人(定員)の子ども達を受け入れる予定。尚、21年間、世田谷区奥沢で運営してきた公認保育室「YMCA チャイルドケアセンター」は、3月末をもって閉園します。

■各地のYMCAの推薦を受けた16歳から35歳のボランティアリーダーが登録される「日本YMCA ユースボランティア」として、今年度は全国22のYMCAから552人、その内東京YMCAから50人が認証を受けました。各コミュニティーセンターから認証カードやボランティア手帳が手渡されました。

(担当主事 木川 拓)

東京 YMCA の HP
で、WHOの毎月の
予告と報告を写
真入りで見ること
が出来ます。



<http://tokyo.ymca.or.jp/community/2019/03/20190326-01.html>

☆☆ インタビュー ☆☆ 長津 徹さんに聴く

* * *

長津徹さん(東京サンライズ)は、今年6月に開催される第22回東日本区大会の実行委員長です。



—長津徹さんと初めて会ったのは、1992年の東京九段で行われた日帰りの日本区大会閉会后、飯田橋のカラオケスナックでしたね。

「そうでした。たぶん入会3年目のはずです。当時も今も、ワイズの集いでは、必ず新しい出会いを期待しています」

—長髪を後ろで結んでいました。ワイズも、いろんな人がいるなと思いました。あの時、サラリーマンでしたか。

「いいえ、前の年に会社を立ち上げたばかりで良いことばかり考えていた頃です」

—宮仕えの経験は。

「ありますよ。学校を出て今で言うフリーターをしていましたが、結婚を機に約15年間、サラリーマンをしました」

—YMCAやワイズとの出会いは。

「学生時代に東京YMCAのリーダーをしました。体を壊してワングル部をやめたときに大学の掲示版が目にとまり、日曜サイクリングのリーダー募集に応募したのがきっかけです。世田谷ランチ(現在南センター)に所属しましたが、東京世田谷クラブのワイズの方々には物心両面でお世話になりました。その時、いつの日か余裕が出来たらワイズになろうと思いました」

—1989年の東京サンライズクラブ設立時には、誰から、何と云って誘われたのですか。

「子どもができた頃、先輩に誘われ“山中音楽村”というファミリーキャンプに参加しました。メンバーに奈良昭彦さんと神保伊和雄さんがいて、何回か東京山手クラブの例会にさそわれ、出席しました。若いクラブを作るというので東京サンライズクラブの仮例会から参加し、チャーターメンバーになりました。37歳でしたが、丁度クラブの平均年齢でした」

—長津さんは、故奈良信さん(東京山手)と姻戚とか。

「山手クラブの例会でお会いしていましたが知りませんでした。奈良信さんと親戚だということをおの縁続きの画家の田中忠雄さんが教えてくれました」

—生まれは東京ですか。

「熊本市生まれです。父が転勤族で、熊本、金沢、東京、秋田、千葉と引っ越し、東京は中野・世田谷で子ども時代を過ごしました」

—どんな子どもでしたか。

「当時は人から見ると窓際のトットちゃん状態で、嫌な奴だっと思います。チビで生意気、だから友達とは無縁な子どもでした」

—杉並YMCAにも関係があったそうですね。

「1974年ごろ、設立されたばかりの杉並センターでカヌーの成人クラブをやっていました。既製の艇と自作の艇をもって、山中湖や野尻湖で活動していました」

—長津さんは、日本区の電算機導入にも携われたですね。

「設立したのがパソコンソフトの会社で、特に経理は得意分野でしたので、当時同盟のIBMを有料で使用していたのをパソコンに載せ換える作業をしました」

—『日本ワイズメン運動70年史』の編纂時、資料のまとめを担当した長津さんはほとんど編集委員会に顔を出さなかった。委員は不安でした。最後の最後になって立派な表が提出されました。1人で、どうやってまとめたのですか。

「パソコン導入の時もそうだっ

たのですが、資料をまとめるため週何日も早稲田奉仕園にあった日本区事務所に通いました。日本区の事務所では大先輩からアドバイスをいただきました。同盟事務所には楽しいスタッフもおられて、通うのが楽しみでした」

—長津さんは、国際のユースコンボケーションに良く参加されていますね。

「リーダー時代に中高生のグループを作って、主に野外活動や奉仕活動をしていました。そのような“少年事業”と言われる活動が無くなり、都市YMCAのユースパワーが弱くなっているように思います。ワイズのユース事業が補完できるかはわかりませんが、独自の事業としての存在価値は大きいと思い活動しています」

—池袋でレストランを経営されておりましたね。

「料理が好きで友人を呼んでワイワイすることが大好きな妻の思いつきにうっかり賛成してしまいました。でも実に面白い16年間でした。定期的に小室等さんにライブをお願いしたり、まだ無名時代の新垣勉さんのドキュメント番組収録にお店を使ってもらったこともありました。店の名を一切出さないようTV局をお願いしてあったのに、どこで調べたのか問い合わせの電話が鳴り止みませんでした。そして、そろそろお店を閉めようと考えていた時に、妻に日本基督教団出版の“こころの友”料理コーナー連載の依頼をお引き受けしたことで閉店を1年延期しました」

—6月の区大会の準備は、追い込みになりましたね。

「私たちのクラブは、創立5周年で、日本区最後の東日本区大会をホスト、今回は30周年です。楽しい大会を目指しています。皆様と大会会場でお会いできるのを楽しみにしております。ぜひご参加ください」

—有難うございました。(吉田明弘)

旅で出会った人 ⑦

村野絢子

平和な島バミューダ島

夫の友人から「来年春には日本に戻るから、その前のクリスマスシーズンに来ませんか」とのお誘いがあり 1993 年 12 月 21 日、日本を発ち NY で 1 泊しバミューダ島に向かった。空港でどこに宿泊するのか聞かれ、友人の名を告げるとその場で確認し OK となり入国を許された。

バミューダ島は火山の外輪山で大島ほどの小さな島で、400 年程前に英国から米国に向かう船団の一艘が島に衝突し発見され、その歴史が始まる。旅行者は黄色の小さい車に乗る、30 キロが制限速度、現地の人は黄色の車が右に曲がる合図でも左かもしれないとゆっくりと待つ。交差点には引退した牧師が立ち、通る車に「ハブアナイスデイ」と声を掛ける。半分以上がアフリカ系黒人で、バスに乗ると着飾った婦人たちが笑顔で「どこから来たの」「その服の色あなたによく似合ってるわ」「バミューダ

はいいでしょ」と話しかけてくる。

日本人はホテルに滞在する新婚カップルが多く、住人は友人夫婦と現地の人と結婚した乗務員の女性のみだという。小さな島に 200 ものキリスト教各派の教会があり、住宅の門はムーンゲイトで家々に工夫されたクリスマス飾りが楽しい。

夫妻の友人のシス・シモンズ夫妻のゲストハウスに宿泊した。パーティーには NY に住む親せきも集まり、シスは友人も多く、教師の家庭、いくつかの教会を案内してくれた。上等なレストラン、ちょっと威張ったイギリス人、上って下りればどちらにも広がるきれいな砂浜、広場には大きなシイソウがあり、昔悪事を働いた人をくくり付け、取り囲んだ人々が「5 回」「10 回」…と決め海に浸ける罰の名残があった。

友人の夫人は声楽家なので、街で「あなたのコンサートに行った」と声を掛けられる。買い物で財布を忘れて戻ると店員が「これこれ」と手を振っている。世界一平和な島と見た。

新聞と私

河原崎和美

私は本や新聞を読むのが好きです。最近では主人の目が悪くなり小さな文字が見えないと言うことでほとんど読まなくなりましたが、以前はそれこそ取り合うように読んでいました。娘はもっぱらスマホでニュースを読んでおり、家族で新聞を読むのは私一人です。ですので、主婦の「もったいない精神」でしょうか。隅から隅まで読みます。

学生時代、私は、「Campus News」編集部には属していました。吉田明弘さん、石井元子さんも一緒でした。夏には野尻湖に合宿して勉強しました。

その頃、わざわざ野尻湖まで大先輩が講義をしいらして下さっていたのですが、年長さんの吉田さんも講義をしてくださいました。そのお話が今なお私の心に残っています。

それは、野球観戦の後など勝敗も戦況が明らかにわかっているのに翌日の新聞が待ち遠しく、まずその記事を読みたくるとい

うお話でした。

半世紀以上過ぎた今、大相撲で貴景勝が大一番で勝利した時、私は翌朝の新聞をワクワクしながら手に取りました。スポーツ欄を見てとても興奮し、吉田さんの話を思い出しました。歌舞伎を観た後も、その舞台について書いてある批評を見つけると単なる記事ではなく非常に興味をもって、なるほどとうなずいたり、それは違うのではないかと思ったり、感情が入った読み物になります。新聞には不思議な力が宿っているのでしょうか。青春時代の合宿で心に残るお話を聴かせていただいた先輩が、毎月ワイズでいろいろとお導きを頂けるのも何かのご縁だと思えます。

老若男女が共通して読む読み物で一番ポピュラーなのが新聞です。現代では、新聞を読む人も減り、ネットニュースと言う便利なものがあります。しかも、翌日を待たずにすぐに情報が入ってくる時代です。しかし「どのように書かれているのか」と興味を持ちながら読む新聞が好きです。時

代は変われどデジタルにはない良さが新聞にはあると私は思っています。

編集後記

WHO ウォーキングは、1997 年の活動開始以来、毎月月初に『WHO REPORT』というグリーンの紙メディアを発信し、報告と次回予告をしてきました。

昨年 12 月からは、東京 YMCA のメールマガジンにも掲載してもらっています。ブリテンには、毎号、そのアドレスと QR コードを載せています。写真がカラーで何枚も載るので、訴求力が圧倒的に優れています。

2 月の漱石が『猫』を書いた『文の京』には、インターネットで知ったという、漱石ファンが参加されました。漱石が学び、教え、住み、書いた場所と作品に登場する場所ゆかりの地を、9 か所訪ねましたが、満足いただけただろうか。でも、3 月にも見えました。読まれる対象が増え、目的もさまざまになると、いろいろと責任を感じるようになります。(AY)